

文章入力スピード認定試験（日本語）・（英語）実施要項

本認定試験は、正確かつ迅速なキーボード入力技能の向上を図ることを目的として実施する。

■文章入力スピード認定試験実施概要 ■

1. 実施日 7月第2日曜日 10月第2日曜日 12月第2日曜日 2月第4日曜日
★試験会場校からの届出により前後10日間の移動が可能です。
2. 試験会場 本協会指定会場（申し込みのあった各大学、各学校および教室が試験会場校となります。ただし、原則として受験者が10名以上であることを要します）
3. 受験資格 制限ありません。
4. 試験形式 実技試験
5. 受験申込方法 本協会が配布するブラウザベースアプリを使用（使用機種は問いません）
試験会場校は、申込受付期間中に受験人数をとりまとめ、受験申込締切日までに本協会ホームページよりお申し込みください。なお、本協会指定の受験申込書に記入のうえ、各本部あてにFAXでの申し込みも可能です。
6. 受験料支払方法 受験料は、本協会発送の「請求書兼払込取扱票」が届き次第、その払込取扱票を使用し、お支払いください。
7. 合格者の発表 結果の発表は、試験会場校より直接受験者に発表してください。
なお、受験者からの試験の合否および成績についてのお問い合わせは、受け付けておりません。
8. その他
 - 1) 答案の公開・返却はいたしません。
 - 2) 認定証書は、試験会場校を通じて交付してください。
 - 3) 認定証書の再発行はいたしません。ただし申請により認定証明書の発行をいたします。
 - 4) 受験者などの個人情報の取り扱いにはご注意ください。

受験者への注意事項

※事前に受験者へお知らせください

1. 指定された時刻までに試験会場に入場していること。
2. 持参する物 ①受験票 ②身分証明書 ③筆記用具
3. 試験会場においてはすべて試験監督の指示に従うこと。
4. 試験会場において不正行為を行った場合は退場とし、試験は認定対象外とする。
5. 試験中に機器のトラブルが発生したときは速やかに手を挙げ、試験監督の指示を仰ぐこと。

実施方法・試験の注意

事前準備

試験で使用する機器の点検を行ってください。

試験時間前

- ①アプリの立ち上げを指示してください。
- ②受験番号・受験者名を入力させてください。
- ③練習問題を使用して3分程度の指ならしおよび機器の点検を実施させてください。
- ④指ならしで入力した内容を削除させてください。
- ⑤問題用紙を配布（閉じたまま表紙を上に）し、「始め」の号令がかかるまでは問題を見ないように指示してください。

（日本語・英語：10分）

- ※機器にトラブルが発生した場合は受験者に不平等が生じないように対応してください。
- ①試験時間はタイマーを使い、正確に計測し、「始め」・「やめ」等の号令は大きな声で行い、節度ある試験にしてください。
 - ②「始め」の号令で試験を開始します。
注）「8分経過、残り時間2分」と必ず受験者に伝えてください。
 - ③「やめ」の号令でキーボード・マウスから手を離させ、問題用紙を閉じて表紙を上にさせてください。

試験時間後（ファイルの保存）

- ①問題用紙を回収してください。
- ②解答ファイルの保存を指示してください。（保存は受験者自身が行う）
- ③解答ファイルを回収してください。
- ④受験者が使用したパソコンに試験内容が残らないようにしてください。

試験実施後

- ①回収した解答ファイルをフォルダーにまとめ、圧縮してください。
- ②採点は保存されたデータにより本協会が行います。以下のものをお送りください。
 - ・結果保存されたデータ
 - ・受験者名簿ファイル

★結果データは、返却いたしません。

★本協会での採点後、結果通知書および認定証書を試験会場校へ送付いたします。

（認定証書の日付は、本協会の規定実施日として発行いたします）

★採点について不明な点は統括本部までお問い合わせください。 Tel (052) 936-3817

■文章入力スピード認定試験規則 ■

- 第1条 本協会は、学生、生徒ならびに卒業生、その他に対して日本語入力技能・英語入力技能を認定する。
- 第2条 認定する段・級は、特段・初段・1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級・6級の10種とする。
- 第3条 認定試験は、年4回実施する。
- 第4条 認定試験は、実技試験とする。
- 第5条 認定試験は、「文章入力スピード認定試験基準」により実施する。
- 第6条 認定基準に沿って認定証書を授与する。
なお、認定証書の再発行は行わない。(再発行は認定証明書とする)
- 附 則 この試験規則は、令和3年4月1日より施行する。

■文章入力スピード認定施行細則 ■

- 第1条 受験希望者は、所定の受験申込書に必要事項を記入のうえ、受験料を添えて期日までに試験会場校に提出しなければならない。
- 第2条 受験料は、次のように定める。(税込み)
- 【一般受験料】
1科目 1,200円
- 【特定受験料】
1科目 1,000円
- 第3条 受験票は、試験会場に持参しなければならない。
- 第4条 試験会場では、試験監督の指示に従わなければならない。
- 附 則 この施行細則は、令和3年4月1日より施行する。

■ 文章入力スピード認定試験基準 ■

■日本語

1. 内 容 試験時間内に問題文どおりに入力する。
10分間
2. 試 験 時 間 試験時間内に入力した純字数により以下の段・級を認定する。
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 特 段…2,000 文字 以上 | 初 段…1,500 文字 以上 |
| 1 級…1,000 文字 以上 | 準1級…800 文字 以上 |
| 2 級…600 文字 以上 | 準2級…450 文字 以上 |
| 3 級…350 文字 以上 | 4 級…250 文字 以上 |
| 5 級…100 文字 以上 | 6 級…50 文字 以上 |
3. 認 定 基 準
4. 採 点 方 法 1ミスにつき1文字減とする。(各段・各級とも同じ)
純字数=総字数-ミス数

■英 語

1. 内 容 試験時間内に問題文どおりに(ストレートに)入力する。
10分間
2. 試 験 時 間 試験時間内に入力した純ストロークス(純字数)により以下の段・級を認定する。
- | | |
|---------------------|---------------------|
| 特 段…4,000 ストロークス 以上 | 初 段…3,000 ストロークス 以上 |
| 1 級…2,000 ストロークス 以上 | 準1級…1,600 ストロークス 以上 |
| 2 級…1,200 ストロークス 以上 | 準2級…900 ストロークス 以上 |
| 3 級…700 ストロークス 以上 | 4 級…500 ストロークス 以上 |
| 5 級…200 ストロークス 以上 | 6 級…100 ストロークス 以上 |
3. 認 定 基 準
4. 採 点 方 法 1ミスにつき2ストロークス減とする。(各段・各級とも同じ)
純ストロークス=総ストロークス-(ミス数×2)

採点規則（日本語）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

日本は昔から実に環境に優しい暮らしをしていました。土や草、手作りの布や紙に囲まれていたのです。そして、それらは当然のように繰り返し使われてきました。現代は、リサイクルを声高にして叫ばれている時代ですが、日本ではもともとごく自然に行われていました。中でも和紙は、暮らしのさまざまな場面で使われており、今もその素材の素晴らしさは高く評価されています。現在、使用した紙の再生率は、世界的にも高い水準に達しています。今後はこの数字をできる限り伸ばす努力が必要だと思います。

ニッケン印刷株式会社は、再生紙技術と研究を40年行っているJ. Palmer教授に経営指導を受けながら、上記の創業者の言葉を実現すべく、努力を重ねて参ります。

	規則	正しい例	誤った例	ミス
1	誤字 問題と異なった文字が打たれた場合は、問題文の1文字について1ミスとする。	使用した紙の	私用した紙の	1
		暮らしのさまざま	暮らしの様々	4
		高く評価されて	たかく評価されて	1
2	全角、半角 数字・英字・カタカナ・記号は半角入力しないこと。 ※半角がある場合は全体で1ミス	40 J. Palmer ニッケン	40 J. Palmer ニッケン ※半角	1
3	段落の始め 問題文どおりとする。 段落の始めは必ず全角1文字分あけること。 ※その箇所ごとに1ミス	日本は昔から実に～れていたのです。	日本は昔から実に～ていたのです。	1
4	段落の終わり 問題文どおりとする。 段落の終わりは必ず改行をすること。 ※その箇所ごとに1ミス	～だと思います。 ニッケン印刷株式～	～だと思います。ニッケン印刷株式～ ※段落の終わりに改行がない ※段落の1文字目があいていない	2
5	強制改行 段落の終わり以外で改行をした場合は、その箇所ごとに1ミスとする。	～ました。現代は、リサイクルを～	～ました。 現代は、リサイクルを～	1
6	飛び字・余分子 余分なスペースを打った場合は、スペース数に関わらず1ミスとする。 問題文以外の文字を打った場合は、その文字数分をミスとする。 同じ文字を再度打った場合は、その文字数分をミスとする。	～そして、それは	～そして、__それは	1
		できる限り伸ばす	～そして、__それは できる限りに伸ばす	1
		紙の再生率	紙の再生の再生率	3
7	脱字	今後はこの数字を	今後は数字を	2
8	転倒 転倒した文字は、文字数分をミスとする。	必要だと 株式会社	必要 <u>とだ</u> 会社株式	2 4
9	全文の2度打ち 問題文を打ち終えても2度打ちではない。2度打ちした分は、総字数に加えない。			
10	長音記号と読点 長音記号「ー」とハイフン「-」の混合は許容範囲として減点はしない。 読点「、」とカンマ「，」はどちらか一方に統一してあれば許容範囲とする。 混合している場合は全体で1ミスとする。			

採点規則（英語）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds as a model. They planned flying machines with wings.
But the first traveler in the air was not in an airplane but in a balloon. Balloons were making journeys in the air a hundred years before the first airplane left the ground.

	規則	正しい例	誤った例	ミス
1	誤って打たれた語 1語中に誤りがいくつあっても、1ミスとする。 <u>※その箇所ごとに1ミス</u>	They planned flying	They <u>planed</u> flying They <u>pranned</u> flying They <u>pllaanned</u> flying	1 1 1
2	パラグラフ（段落）の始め 1タブ分（5スペース）空白をとる。 <u>※その箇所ごとに1ミス</u>	Flying in the air was~ looked on birds as~ wings.	<u>Flying</u> in the air was~ looked on birds as~ wings.	1
3	パラグラフ（段落）の終わり 各パラグラフの終わりは、問題文どおりに改行する。 <u>※その箇所ごとに1ミス</u>	wings. ④ But the first traveler~	wings. __But the first traveler~ ※パラグラフの終わりが改行されていない ※パラグラフの始めの空白がない	2
4	強制改行 パラグラフの終わり以外で改行をした場合は、その箇所ごとに1ミスとする。	Flying ~ Many inventors looked on birds as~ wings.	Flying ~ Many ④ inventors looked on birds as~ wings.	1
5	スペースと句読点 スペースと句読点は、前の語の一部分とみなされる。（項目12参照）	Flying in the air was~ looked on birds as~ wings.	<u>Flying</u> in the air was~ <u>looked</u> on bi rds as~ <u>wingas</u> :	1 2 1
6	順序を前後して打たれた場合 語の文字や、文中の語・行がおきかえて打たれた場合には誤り（ミス）となるが、おきかえて打たれた語の中に誤りがあれば、さらに誤りとして加えられる。	Flying in the air was~ looked on birds as~ wings. ④ But the first traveler~ but in a balloon.	Flying in the air was~ looked <u>birds on</u> as~ wings. ④ But the first traveler~ <u>in buut</u> a balloon.	1 2
7	打ちおとし 1語につき3ミスとする。	Flying in <u>the</u> air was~ looked <u>on</u> birds as~ wings. ④ But the first traveler~ but <u>in</u> a balloon.	Flying in air was~ looked birds as~ wings. ④ But the first traveler~ but balloon.	3 3 6
8	繰り返し語・余分語 余分語を挿入した場合、挿入1箇所で1ミスであるが、その中に誤りがあれば計算される。	But the first traveler~ but in a balloon. Balloons~ hundred years before~	But the first traveler~ but in <u>in</u> a balloon. Balloons~ hundred years <u>bigg</u> before~	1 2
9	問題文の誤り 問題文に誤りがあったときは、訂正して打つても、また原文のとおり打ってもよい。しかし打たなければ誤りとする。			
10	最後の語 時間がきて、1語の途中で終わったときは、その打ったところまでのストロークス数が計算される。ただし、その中に誤りがあれば、1ミスとなる。	but in a balloon. Balloons~ hundred ~ left the ground.	but in a balloon. Balloons~ hundred ~ left the <u>goou</u>	1
11	全文の2度打ち 問題文を打ち終えても2度打ちではない。2度打ちした分は、ストロークスに加えない。			
12	句読点の後のスペースのあけ方 A) Period (.) の後は2スペースあける。 B) Colon (:) の後は2スペースあける。 C) Exclamation Mark (!) の後は2スペースあける。 D) Question Mark (?) の後は2スペースあける。 E) Semicolon (;) の後は1スペースあける。 F) Comma (,) の後は1スペースあける。 G) Hyphen (-) 前後のスペースはあけない。 H) Abbreviation Mark (Ave.) の後は1スペースあける。(ただし Abbreviation Mark が Period を兼ねる場合は2スペースあける) 誤った場合はその箇所ごとに1ミスとする。	A) Period (.) の後は2スペースあける。 B) Colon (:) の後は2スペースあける。 C) Exclamation Mark (!) の後は2スペースあける。 D) Question Mark (?) の後は2スペースあける。 E) Semicolon (;) の後は1スペースあける。 F) Comma (,) の後は1スペースあける。 G) Hyphen (-) 前後のスペースはあけない。 H) Abbreviation Mark (Ave.) の後は1スペースあける。(ただし Abbreviation Mark が Period を兼ねる場合は2スペースあける) 誤った場合はその箇所ごとに1ミスとする。	A) Period (.) の後は2スペースあける。 B) Colon (:) の後は2スペースあける。 C) Exclamation Mark (!) の後は2スペースあける。 D) Question Mark (?) の後は2スペースあける。 E) Semicolon (;) の後は1スペースあける。 F) Comma (,) の後は1スペースあける。 G) Hyphen (-) 前後のスペースはあけない。 H) Abbreviation Mark (Ave.) の後は1スペースあける。(ただし Abbreviation Mark が Period を兼ねる場合は2スペースあける) 誤った場合はその箇所ごとに1ミスとする。	